

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は遊び、遊びは仕事
仕事は遊び、遊びは仕事
遊びは遊び、遊びは遊び
遊びは遊び、遊びは遊び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（四）

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。**（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることとなります。

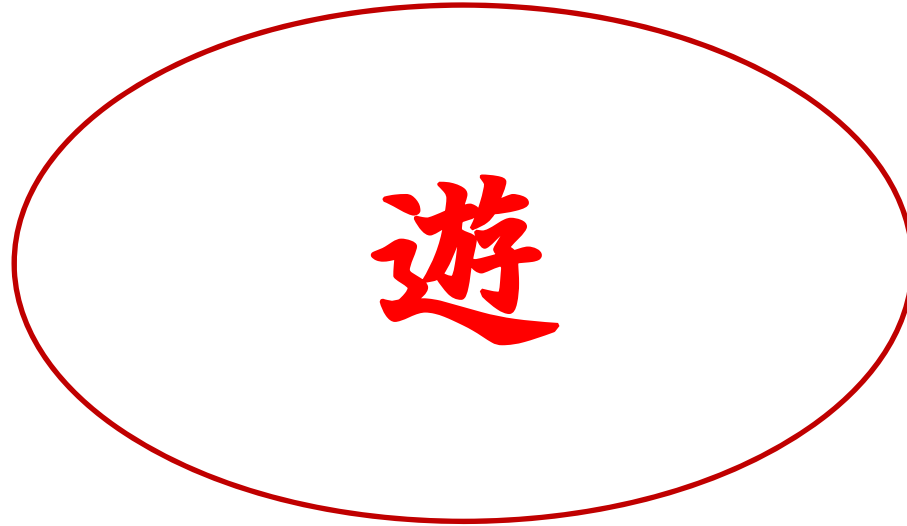
この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中で的人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二二世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していききたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真つ平御免の何でもありの形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦 勇三



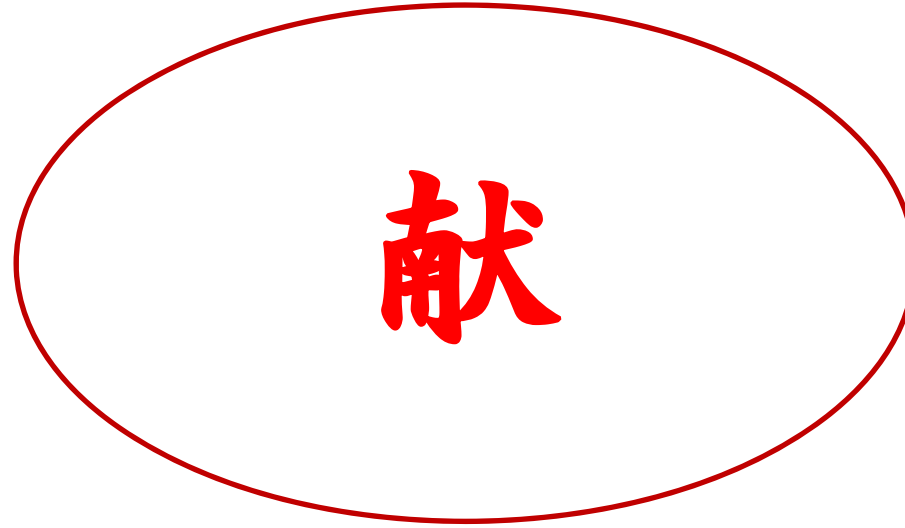
遊びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

○これだ、と思いついた一筋の道 じつくり知を蓄積し、うまくいけば富も築ける
困難は次から次へとやってくる 重くとらえない、できるだけ簡素に受け止める
めざす位置から知の肩車に乗り今を振り返る 除去すべき悪さや障害がはつきり
感覚を言葉と論理でサポート 三石、しんぼう石・観察石・長寿石、と徳川家康

○面白い、やりたいと思つたらすぐやる チリ爆発事故の最大の教訓
何より絶対評価 計画の一日遅れは実行の百日遅れ、とは後藤新平
人気はフランスパン、普及はイギリス風 文化風土と多様性を遊ぶ
人生と生活にこれという正解はない いわんや、遊びにおいてをや

○萎縮こそ最大のリスク、変化に順応し恐怖心を除去 無欲万両、と西鶴
正常時に発揮できるスキル 非常時でも決定打になる絶対的保証はない
自由競争の中で生きていく覚悟 だからこそ学問や理論をバカにしない
教養ある人間への敬意 教養の蓄積がないと、世界で持続的に戦えない



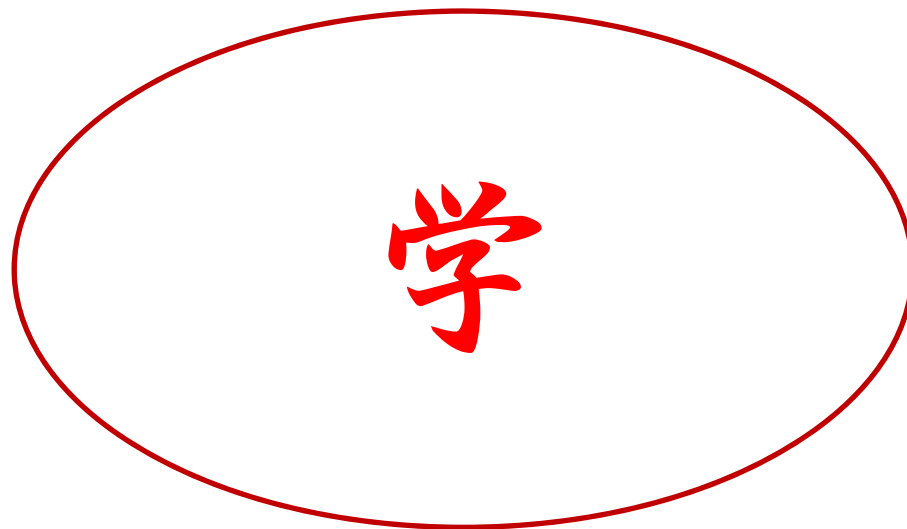
仕事をせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粹

○企画が決まった後に どうしようかとやり方を考えるのは、最悪のパターン
苦しいのは日常茶飯事 組織力ばかりが強くなると、個人が委縮し弱くなる
論理的・客観的な思考と主観的な直感をフル稼働 現実を生みの形で掌握する
大リーグのキャンプ 投手は捕手以外の野手の全てのポジションを経験する

○悔いのないようにやる だから、勉強も稽古も怠らない
大相撲でも最近の稽古量は1/3 どの世界も稽古不足
問題だからやめさせろ、だけでは堂々巡り 永遠の循環
極意は頭でなく体で覚えていく 人間をブランドにする

○いつの時代でも 顧客が熱烈に歓迎するような人間、時代の流れに負けない力
自らが自力で機会を生みだし、機会を通じて自らを変える 思い切り泣き笑う
話すことが上手な人は 聞く能力をもっている ひらめきに、妥協は要らない
ウィーンオペラ座は、同じオペラを毎年公演 深みを極める上では賢明な判断



学びをせんとや生れけん

*三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粹

○ 正規の教育を受けていないことが時には強みになる。ゴッホや棟方志功は我流ものを創造する条件。一匹狼でなく、米国流マーベリック（駿牛）であること。コミュニティではKYを甘受する。実力以上に評価されたら追いつくよう努力。技術にも仕込み時期。下りで調子にのると平らな道も上り坂、と有森裕子選手

○ 世界一になるためには世界一になる方法を自分で考える。模範解答はない。勝負。自分でしか出せない知恵、自分の答えを持つ。脳から絞り出す覚悟。独自性を持たない世界一はない。望むは栄光へ到達するための無限の努力。イランの天然真珠産業。御木本幸吉の人工真珠で壊滅し、石油へ舵をきる

○ 激動期では。手堅いやり方はよさそうに見えてかえって危険、過去を引きずる。厳しいから逃げる口実を必死に探す。人間は動物、ペットでなくあくまで野生。日本には古きよき価値観。グローバル社会で十分通用、徳俵で花を満開にする。道場での立会なら志ん生に勝てるが野仕合となったら斬られる、と三遊亭円生

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタンの見分け方、かかり方」（清語舎）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解 ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（四）」（抜粋）

著者 大浦勇三

二〇二二年二月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒一〇八・〇〇一四 東京都港区芝四丁目一六・一・二〇〇五

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。